工　種	鉄筋工(ガス圧接工)

改正理由	廃止	改正 現行	

現行	改正	備考
2－3　加算率・補正係数 （1）　加算率・補正係数の適用基準 表2.2 加算率・補正係数の適用基準 （2）　加算率・補正係数の数値 表2.3 加算率・補正係数の数値 (注)　施工規模加算率（S_1）と時間的制約を受ける場合の補正（K_1）が重複する場合は，施工規模加算率のみを対象とする。 2－4　直接工事費の算出 直接工事費＝設計単価（注）×設計数量 (注)　設計単価＝標準の市場単価×（1＋S_0 or S_1／100）×(K_1×K_2) 3．適用にあたっての留意事項 市場単価の適用にあたっては，以下の点に留意すること。 （1）　普通鉄筋，異形鉄筋の区分はしない。 （2）　圧接作業に必要な施工器具（ホース，ポンプ，バーナー等），圧接面の清掃費用を含む。 （3）　随意契約により調整をおこなう追加工事の取り扱いは，現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定するものとする。 VI-2-①-11	→ 削除	歩掛の廃止

表2.2 加算率・補正係数の適用基準

規格・仕様		適用基準	記号	備考
加算率	施工規模	標準	S_0	全体数量
		1工事の施工規模が,100箇所未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。複数の規格・仕様を含む工事の施工規模の判定は,1工事における全規格・全仕様の全体数量で判定する。	S_1	全体数量
補正係数	時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4時間以上に制限する場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_1	対象数量
	夜間作業	通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して,作業時間が夜間(20時～6時)にかかる場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_2	対象数量

表2.3 加算率・補正係数の数値

規格・仕様		記号	ガス圧接工
加算率	施工規模	S_0	100箇所以上 0%
		S_1	100箇所未満 15%
補正係数	時間的制約を受ける場合	K_1	1.15
	夜間作業	K_2	1.45

積算上の注意事項		（控え頁） 2／3

工　　種	鉄筋工(ガス圧接工)

改 正 理 由	廃止	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考

4. 施工単価入力基準表

ガス圧接工（手動・自動）

施工歩掛コード	WB810110	施工単位	箇所

施工区分	入　　力　　条　　件			
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４
各　　種	規格・仕様 (表4.1)	施 工 規 模 ①100箇所以上(標準) ②100箇所未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①有 ②無	夜間作業補正 ①有 ②無

(注)１．酸素，アセチレン等の材料費を含む。

２．Ｊ２条件で②を選択した場合は，Ｊ３条件は選択する必要はない。

表4．1　規格・仕様

規格・仕様	番号	規格・仕様	番号
D19+D19	①	D35+D35	⑥
D22+D22	②	D38+D38	⑦
D25+D25	③	D41+D41	⑧
D29+D29	④	D51+D51	⑨
D32+D32	⑤		

→ **削除**

歩掛の廃止

積算上の注意事項		(控え頁) 3／3

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

② インターロッキングブロック工

1. 適用範囲

本資料は，市場単価方式による，インターロッキングブロック工に適用する。

1－1　市場単価が適用出来る範囲

（1）　新設，更新，撤去工事（ハンドホール蓋部及びマンホール蓋部にも適用可。）

（2）　特殊品を使用する場合は，「3．適用にあたっての留意事項(4)」の方法により市場単価を適用することが出来る。

1－2　市場単価が適用出来ない範囲

（1）　特別調査等別途考慮するもの

1）　メーカーが指定するオリジナル製品を用いる場合。

2）　連続するキャブ部の蓋部に設置及び撤去する工事。

3）　敷材料に練りモルタル，樹脂モルタルを使用する設置及び撤去工事。

4）　離島及び山間僻地等で明らかに単価が異なると判断される地域の場合。

5）　その他，規格・仕様等が適合せず，市場単価が適用出来ない場合。

2. 市場単価の設定

2－1　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線の部分である。

工種	市場単価		
	機	労	材
設置	○	○	○

路盤工 → 敷材料敷均し → ブロックの敷設 → 端部切断 → 転圧 → 目地詰め

（注）1．敷材料(砂又は空練りモルタル)の材料費は市場単価には含まない。ただし，敷材料に空練りモルタルを使用する場合の混練費用は含む。

2．単価には，インターロッキングブロックの材料ロスを含む。

3．目地材料(砂)の材料費(目地詰め手間含む)は市場単価に含む。

工種	市場単価		
	機	労	材
撤去再使用	○	○	

ブロックの撤去 → ブロックの清掃 → 現場内集積 → 積込み → 運搬 → 再設置

工種	市場単価		
	機	労	材
撤去とりこわし	○	○	

ブロックの撤去 → 現場内集積 → 積込み → 運搬 → 処分

（注）　撤去で発生したブロック等の処分費は含まない。

改正

第２章　市　場　単　価

~~②~~① インターロッキングブロック工

1. 適用範囲

本資料は，市場単価方式による，インターロッキングブロック工に適用する。

1－1　市場単価が適用出来る範囲

（1）　新設，更新，撤去工事（ハンドホール蓋部及びマンホール蓋部にも適用可。）

（2）　特殊品を使用する場合は，「3．適用にあたっての留意事項(4)」の方法により市場単価を適用することが出来る。

1－2　市場単価が適用出来ない範囲

（1）　特別調査等別途考慮するもの

1）　メーカーが指定するオリジナル製品を用いる場合。

2）　連続するキャブ部の蓋部に設置及び撤去する工事。

3）　敷材料に練りモルタル，樹脂モルタル，空練りモルタルを使用する設置及び撤去工事。

4）　離島及び山間僻地等で明らかに単価が異なると判断される地域の場合。

5）　その他，規格・仕様等が適合せず，市場単価が適用出来ない場合。

2. 市場単価の設定

2－1　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線の部分である。

工種	市場単価		
	機	労	材
設置	○	○	○

路盤工 → 敷材料敷均し → ブロックの敷設 → 端部切断 → 転圧 → 目地詰め

（注）1．敷材料(砂~~又は空練りモルタル~~)の材料費は市場単価には含まない。~~ただし，敷材料に空練りモルタルを使用する場合の混練費用は含む。~~

2．単価には，インターロッキングブロックの材料ロスを含む。

3．目地材料(砂)の材料費(目地詰め手間含む)は市場単価に含む。

工種	市場単価		
	機	労	材
撤去再使用	○	○	

ブロックの撤去 → ブロックの清掃 → 現場内集積 → 積込み → 運搬 → 再設置

工種	市場単価		
	機	労	材
撤去とりこわし	○	○	

ブロックの撤去 → 現場内集積 → 積込み → 運搬 → 処分

（注）　撤去で発生したブロック等の処分費は含まない。

備考

記載の変更

記載の変更

積算上の注意事項

（控え頁）

工　種	インターロッキングブロック工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

２－２　市場単価の規格・仕様区分
インターロッキングブロック工の市場単価の規格・仕様区分は下表のとおりである。

表2．1　規格・仕様区分

規格・仕様				単位
設置	直線配置	ブロック厚6cm	標準品を直線的に並べ設置する場合に適用。	㎡
		ブロック厚8cm		㎡
	曲線配置	ブロック厚6cm	標準品を曲線的に並べ設置する場合に適用。	㎡
		ブロック厚8cm		㎡
	直線配置 ３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	３色以上の標準品を直線的に並べ設置する場合に適用。	㎡
		ブロック厚8cm		㎡
	曲線配置 ３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	３色以上の標準品を曲線的に並べ設置する場合に適用。	㎡
		ブロック厚8cm		㎡
撤去	再使用目的の撤去	ブロック厚 6cm，8cm	設置してあるインターロッキングブロックを再使用を目的として撤去する場合に適用する。	㎡
	とりこわし	ブロック厚 6cm，8cm	設置してあるインターロッキングブロックを撤去する場合に適用する。	㎡

（注）　ハンドホール蓋部及びマンホール蓋部等の設置は，蓋部に接続する面のブロック厚を選択し，適用する。

２－３　加算率・補正係数
（１）　加算率・補正係数の適用基準

表2．2　加算率・補正係数の適用基準

規格・仕様		適用基準	記号	備考
加算率	施工規模	標準	S_0	全体数量
		1工事の施工規模が標準より小さい場合は，対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	S_1	
補正係数	時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間（所定労働時間）を7時間以下4時間以上に制限する場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_1	対象数量
	夜間作業	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して，作業時間が夜間（20時～6時）にかかる場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_2	

VI-2-②-2

改正

２－２　市場単価の規格・仕様区分
インターロッキングブロック工の市場単価の規格・仕様区分はド表のとおりである。

表2．1　規格・仕様区分

規格・仕様				単位
設置	直線配置	ブロック厚6cm	標準品を直線的に並べ設置する場合に適用。	m2
		ブロック厚8cm		m2
	曲線配置	ブロック厚6cm	標準品を曲線的に並べ設置する場合に適用。	m2
		ブロック厚8cm		m2
	直線配置 ３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	３色以上の標準品を直線的に並べ設置する場合に適用。	m2
		ブロック厚8cm		m2
	曲線配置 ３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	３色以上の標準品を曲線的に並べ設置する場合に適用。	m2
		ブロック厚8cm		m2
撤去	再使用目的の撤去	ブロック厚 6cm，8cm	設置してあるインターロッキングブロックを再使用を目的として撤去する場合に適用する。	m2
	とりこわし	ブロック厚 6cm，8cm	設置してあるインターロッキングブロックを撤去する場合に適用する。	m2

（注）　ハンドホール蓋部及びマンホール蓋部等の設置は，蓋部に接続する面のブロック厚を選択し，適用する。

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　種	インターロッキングブロック工

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

（２） 加算率・補正係数の数値

表２．３ 加算率・補正係数の数値

区分		記号	設置	撤去
加算率	施工規模	S_0	100㎡以上 0%	100㎡以上 0%
		S_1	100㎡未満 10%	100㎡未満 40%
補正係数	時間的制約を受ける場合	K_1	1.10	1.40
	夜間作業	K_2	1.15	1.50

（注）１．複数の規格・仕様区分を含む工事の施工規模の判定は，１工事における全規格・仕様の全体数量で判定する。ただし，１工事において設置及び撤去の作業がある場合は，設置・撤去それぞれの数量で判定する。
２．施工規模加算率（S_1）と，時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）が重複する場合は施工規模加算率のみを対象とする。

２－４　直接工事費の算出
直接工事費＝設計単価(注１)×設計数量
（注１)設計単価＝標準の市場単価×（１＋S_0 or S_1／100）×（K_1×K_2）

３．適用にあたっての留意事項

（１） ブロックの種類

１） 標準品
ブロック厚６㎝，８㎝のブロックで特殊品及びオリジナル品を除くブロックをいう。
なお形状は，５．参考資料を参照されたい。

２） 特殊品
特殊品とは以下のものをいう。
イ） 標準品と同形状で青色及び特殊配合した色のブロック。
ロ） 視覚障害者用に表面加工してあるブロック。
ハ） 標準品と同形状でショットブラスト仕上げ，洗い出し仕上げ，研出し仕上げ，粉末樹脂，ガラスビーズ，溶射等を行い表面加工したもの。デザインを施したもの。透水性，植生用，複合（天然石，タイル）のもの。

３） オリジナル品
標準品と形状の異なる各社のオリジナル品。特に扇型等曲線的配置を目的としたもの。

改正

（２） 加算率・補正係数の数値

表２．３ 加算率・補正係数の数値

区分		記号	設置	撤去
加算率	施工規模	S_0	100 ㎡以上 0%	100 ㎡以上 0%
		S_1	100 ㎡未満 10%	100 ㎡未満 40%
補正係数	時間的制約を受ける場合	K_1	1.10	1.40
	夜間作業	K_2	1.15	1.50

（注）１．複数の規格・仕様区分を含む工事の施工規模の判定は，１工事における全規格・仕様の全体数量で判定する。ただし，１工事において設置及び撤去の作業がある場合は，設置・撤去それぞれの数量で判定する。
２．施工規模加算率（S_1）と，時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）が重複する場合は施工規模加算率のみを対象とする。

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

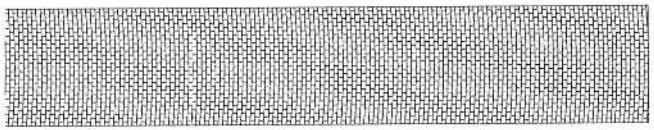
（２） ブロックの配置

１） 直線的配置

標準品を直線的に配置する。２色による色合わせを含む。

２） 曲線的配置

標準品を円形（半径 10m以上で楕円，欠円含む），波形等曲線的に配置する。２色による色合わせを含む。



３） ３色以上による色合わせ

３色以上の標準品を使って模様（絵柄を含む）等にブロックを設置する場合に適用する。

（３） 敷材料の使用量

敷材料は砂又は空練りモルタルとし，材料の使用量は次式による。

イ） 砂・モルタル普通・モルタル高炉・再生砂の場合

使用量（㎥）＝100（㎥）×敷材料の厚さ（m）×（１＋K）

K：ロス率（表３．１ロス率による）

表3．1 ロス率

材　料　名	ロス率
砂	+0.29
空練りモルタル	+0.14

（４） 特殊品を使用する場合は，標準の市場単価から標準の一般部ブロック厚６㎝（８㎝）の材料費を差し引き設置手間をもとめ，特殊品の材料費を加算して適用する。（材料費の入れ換え）

ただし，加算率・補正係数を適用させる場合は，標準の市場単価を補正した後，材料費を差し引くこととする。

設置手間 ＝ブロック厚６㎝（８㎝），標準の市場単価×加算率・補正係数

－ブロック厚６㎝（８㎝），標準の材料単価×1.02

特殊品設計単価＝設置手間＋ブロック厚６㎝（８㎝），特殊品材料単価×1.02

（５） オリジナル品及びキャブ部の蓋部に連続して設置する場合は，材料費の入れ換えによる市場単価を適用しない。

（６） 透水シート布設の有無に関わらず適用できる。ただし，透水シートの材料費は別途計上する。

（７） 設置してあるインターロッキングブロックを撤去して，再使用する場合は，次式による。

撤去（再使用）の標準の市場単価×加算率・補正係数＋設置手間＋新品材料（不足分）のロス

（注１）再設置にあたり発生する材料のロスは新設と同様２％とする。

（注２）設置手間については，（４）の特殊品を使用する場合と同じとする。

（８） 随意契約により調整を行う追加工事の取り扱いは，現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定する。

VI-2-②-4

改正

現行どおり

（３） 敷材料の使用量

敷材料は砂~~又は空練りモルタル~~とし，材料の使用量は次式による。

イ） 砂・~~モルタル普通・モルタル高炉・~~再生砂の場合

使用量（m~~³~~3）＝100（m~~³~~2）×敷材料の厚さ（m）×（１＋K）

K：ロス率（表３．１ロス率による）

表3．1 ロス率

材　料　名	ロス率
砂	+0.29
~~空練りモルタル~~	~~+0.14~~

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

工　種	インターロッキングブロック工

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

5. 施工単価入力基準表

（1） インターロッキングブロック設置

施工歩掛コード	WB810410	施工単位	㎡				
施工区分	入力条件						
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４	Ｊ５	Ｊ６	Ｊ７
各種	作業区分 （表5.1）	ブロック使用材料 ①標準品 ②特殊品	敷材料の種類 ①再生砂 ②空練りモルタル（高炉） ③空練りモルタル（普通） ④砂（クッション用）	敷材料の厚さ （実数入力） （mm）	施工規模による加算 ①100㎡以上 ②100㎡未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業補正 ①無 ②有

（注）１．Ｊ２条件で②を選択した場合は，特殊品材料単価（Y-0314000）［円／㎡］を単価登録すること。
２．Ｊ５条件で②を選択した場合は，Ｊ６条件は①で固定される。

表5．1 作業区分

規格・仕様		入力番号
直線配置	ブロック厚6cm	①
〃	ブロック厚8cm	②
曲線配置	ブロック厚6cm	③
〃	ブロック厚8cm	④
直線配置３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	⑤
〃	ブロック厚8cm	⑥
曲線配置３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	⑦
〃	ブロック厚8cm	⑧

（2） インターロッキングブロック撤去（再設置）

施工歩掛コード	WB810420	施工単位	㎡				
施工区分	入力条件						
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４	Ｊ５	Ｊ６	Ｊ７
各種	作業区分 ①撤去及び再設置 ②撤去のみ	再設置作業区分 （表5.1）	敷材料の種類 ①再生砂 ②空練りモルタル（高炉） ③空練りモルタル（普通） ④砂（クッション用） ⑤敷材料無し	敷材料の厚さ （実数入力） （mm）	施工規模による加算 ①100㎡以上 ②100㎡未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業補正 ①無 ②有

（注）１．Ｊ１条件で①を選択した場合は，撤去及び再設置費が計上される。
２．Ｊ１条件で②を選択した場合は，撤去費のみの計上となるためＪ２～Ｊ４条件は入力する必要はない。
３．Ｊ３条件で⑤を選択した場合は，Ｊ４条件は入力する必要はない。
４．Ｊ５条件で②を選択した場合は，Ｊ６条件は①で固定される。

改正

5. 施工単価入力基準表

（1） インターロッキングブロック設置

施工歩掛コード	WB810410	施工単位	㎡2				
施工区分	入力条件						
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４	Ｊ５	Ｊ６	Ｊ７
各種	作業区分 （表5.1）	ブロック使用材料 ①標準品 ②特殊品	敷材料の種類 ①再生砂 ~~②空練りモルタル（高炉）~~ ~~③空練りモルタル（普通）~~ ~~④~~②砂 （クッション用）	敷材料の厚さ （実数入力） （mm）	施工規模による加算 ①100 ㎡2以上 ②100 ㎡2未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業補正 ①無 ②有

（注）１．Ｊ２条件で②を選択した場合は，特殊品材料単価（Y-0314000）［円／㎡2］を単価登録すること。
２．Ｊ５条件で②を選択した場合は，Ｊ６条件は①で固定される。

表5．1 作業区分

規格・仕様		入力番号
直線配置	ブロック厚6cm	①
〃	ブロック厚8cm	②
曲線配置	ブロック厚6cm	③
〃	ブロック厚8cm	④
直線配置３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	⑤
〃	ブロック厚8cm	⑥
曲線配置３色以上による色合わせ	ブロック厚6cm	⑦
〃	ブロック厚8cm	⑧

（2） インターロッキングブロック撤去（再設置）

施工歩掛コード	WB810420	施工単位	㎡2				
施工区分	入力条件						
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４	Ｊ５	Ｊ６	Ｊ７
各種	作業区分 ①撤去及び再設置 ②撤去のみ	再設置作業区分 （表5.1）	敷材料の種類 ①再生砂 ~~②空練りモルタル（高炉）~~ ~~③空練りモルタル（普通）~~ ~~④~~②砂（クッション用） ~~⑤~~③敷材料無し	敷材料の厚さ （実数入力） （mm）	施工規模による加算 ①100 ㎡2以上 ②100 ㎡2未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業補正 ①無 ②有

（注）１．Ｊ１条件で①を選択した場合は，撤去及び再設置費が計上される。
２．Ｊ１条件で②を選択した場合は，撤去費のみの計上となるためＪ２～Ｊ４条件は入力する必要はない。
３．Ｊ３条件で~~⑤~~③を選択した場合は，Ｊ４条件は入力する必要はない。
４．Ｊ５条件で②を選択した場合は，Ｊ６条件は①で固定される。

備考

記載の変更

記載の変更

積算上の注意事項	

（控え頁）

工種	橋梁付属物工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
(下記「現行」表)	(下記「改正」表)	記載の変更

現行

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(1)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー形式 ボルト後締め	本体付属アンカー形式 本体溶接済み	本体付属アンカー 本体価格に含む	摘要
橋梁メンテナンス	KMSジョイント	KMSⅢ-20,35,50,50W	○			○	○	○		○	20~50	○	6.24	68.4~161.1		○		○	○	誘導板別途
		KMSⅢ-20D,35D,50D,50WD	○			○	○	○		○	20~50	○	6.24	72.0~164.7		○		○	○	二重止水構造付き誘導板別途
	KMAジョイント	KMA-60,80,110,160	○			○	○	○		○	60~160	○	17.36~33.55	57.60~169.74		○		○	○	誘導板別途
		KMA-60N,80N,110N,160N	○			○	○	○		○	60~160	○	17.52~33.71	61.20~174.96		○		○	○	二重止水構造付き誘導板別途
	シーペックジョイント	SP-60KMA,80KMA,110KMA,160KMA		○				○	○		60~160	○	12.86~14.36	81.36~151.92		○		○	○	
		TR-50		○			○	○	○		50	○	1.99	13.86	○			○	○	
ショーボンド建設	3S-Vジョイント	3S-20V,30V	○	○				○	○		20~30	○	6.2	55.0~56.5		○		○	○	
		3S-40V	○					○	○		40	○	6.2	67.5		○		○	○	
	STジョイント	ST-20N,30N,40N,50N,60N,80N	○					○		○	20~80	○	6.2~9.4	54.2~156.5		○		○	○	
		ST-80G	○		○			○		○	80	○	9.4	162.3		○		○	○	誘導板付き
	スマートジョイント	SMJ-20,30,50,70,100	○		○			○		○	20~100	○	6.2	61.1~129.5		○		○	○	〃
	VMジョイント	VM	○	○			○	○	○		20	○	6.2	31.5	○			○	○	鉛直伸縮量20㎜
	3S-Vジョイント(歩道用)	3S-V,3S-20V,30V		○			○	○	○		20~30	○	6.2	37.8~39.3	○			○	○	
	AIジョイント	AIJ-20,30	○					○		○	20~30	○	4.0	42.3~44.8	○			○	○	
		AIJ-40,50	○					○		○	40~50	○	6.2	55.3~58.1		○		○	○	
	SBHジョイント	SBH-40		○				○	○		40	○	4.0	40.5	○			○	○	
		SBH-60,80		○				○	○		60~80	○	4.0	53.8~60.1		○		○	○	
山陽化学	チューリップジョイントSKJ型	20,35,50,60	○			○	○	○		○	20~60	○	1.56	50~100		○		○	○	誘導板別途
	チューリップジョイントSKJ-F型	20,35,50		○		○	○	○	○		20~50	○	1.56	41~48	○			○	○	
		60,80,100		○		○	○	○	○		60~100	○	1.56	68~77		○		○	○	
	チューリップジョイントSKJ-H型	20,30	○			○		○		○	20~30	○	1.56	41.4~45	○			○	○	誘導板別途

※本体に付属するアンカーボルトが，分離可能な「ボルト後締め」の場合は，本体質量に含まない。

→

改正

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(1)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー形式 ボルト後締め	本体付属アンカー形式 本体溶接済み	本体付属アンカー 本体価格に含む	摘要
橋梁メンテナンス	KMSジョイント	KMSⅢ-20,35,50,50W	○			○	○	○		○	20~50	○	6.24	68.4~161.1		○		○	○	誘導板別途
		KMSⅢ-20D,35D,50D,50WD	○			○	○	○		○	20~50	○	6.24	72.0~164.7		○		○	○	二重止水構造付き誘導板別途
	KMAジョイント	KMA-60,80,110,~~160~~	○			○	○	○		○	60~110	○	23.3~24.6	88.2~146.3		○		○	○	誘導板別途
		KMA-60N,80N,110N,~~160N~~	○			○	○	○		○	60~110	○	23.3~24.6	91.8~151.7		○		○	○	二重止水構造付き誘導板別途
	シーペックジョイント	SP-60KMA,80KMA,110KMA,160KMA		○				○	○		60~160	○	12.86~14.36	81.36~151.92		○		○	○	
		TR-50		○			○	○	○		50	○	1.99	13.86	○			○	○	
ショーボンド建設	3S-Vジョイント	3S-20V,30V	○	○				○	○		20~30	○	6.2	55.0~56.5		○		○	○	
		3S-40V	○					○	○		40	○	6.2	67.5		○		○	○	
	STジョイント	ST-20N,30N,40N,50N,60N,80N	○					○		○	20~80	○	6.2~9.4	54.2~156.5		○		○	○	
		ST-80G	○		○			○		○	80	○	9.4	162.3		○		○	○	誘導板付き
	スマートジョイント	SMJ-20,30,50,70,100	○		○			○		○	20~100	○	6.2	61.1~129.5		○		○	○	〃
	VMジョイント	VM	○	○			○	○	○		20	○	6.2	31.5	○			○	○	鉛直伸縮量20㎜
	3S-Vジョイント(歩道用)	3S-V,3S-20V,30V		○			○	○	○		20~30	○	6.2	37.8~39.3	○			○	○	
	AIジョイント	AIJ-20,30	○					○		○	20~30	○	4.0	42.3~44.8	○			○	○	
		AIJ-40,50	○					○		○	40~50	○	6.2	55.3~58.1		○		○	○	
	SBHジョイント	SBH-40		○				○	○		40	○	4.0	40.5	○			○	○	
		SBH-60,80		○				○	○		60~80	○	4.0	53.8~60.1		○		○	○	
山陽化学	チューリップジョイントSKJ型	20,35,50,60	○			○	○	○		○	20~60	○	1.56	50~100		○		○	○	誘導板別途
	チューリップジョイントSKJ-F型	20,35,50		○		○	○	○	○		20~50	○	1.56	41~48	○			○	○	
		60,80,100		○		○	○	○	○		60~100	○	1.56	68~77		○		○	○	
	チューリップジョイントSKJ-H型	20,30	○			○		○		○	20~30	○	1.56	41.4~45	○			○	○	誘導板別途

※本体に付属するアンカーボルトが，分離可能な「ボルト後締め」の場合は，本体質量に含まない。

備考：**記載の変更**

積算上の注意事項		(控え頁) 1／4

工　種	橋梁付属物工

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(2)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー 形式 ボルト後締め	本体付属アンカー 形式 本体溶接済み	本体付属アンカー 本体価格に含む	摘要
新日本構研	スーパーリードジョイント	iG-1s,1sw,1v	○	○		○	○	○	○		80	○	10.58	95~180		○		○	○	誘導板含む,二次止水構造別途
		F	○	○		○		○	○		60	○	7.86	63.00		○		○	○	誘導板,二次止水構造別途
		T	○	○				○	○		60	○	5.15	71.00		○		○	○	誘導板,二次止水構造別途
			○	○			○		○		60	○	3.53	49.00	○			○	○	鉛直伸縮量±30mm,二次止水構造別途
中外道路	ガイスライドジョイント	GS-20,25,30,50,80,100,125,150,175,200,220		○			○	○	○		20~220	○	4.0	83~119		○		○	○	
		GS-NL20,30,40,50,60,70		○			○	○	○		20~70	○	6.2	91.0~110.0		○		○	○	
	スーパーガイトップジョイント	SGTd-20,25,30,50	○			○	○	○		○	20~50	○	6.2	50~56		○		○	○	誘導板別途
		SGTd-80,100	○			○	○	○		○	80~100	○	12.5	70~83		○		○	○	〃
	メタルガージョイント	NL-20FL,30FL,40FL,50FL,60FL,70FL	○			○	○	○		○	20~70	○	6.2	59~149		○		○	○	〃
		NT-80FFL	○			○	○	○		○	80	○	12.5	91		○		○	○	〃
		NLt-30FL,50FL,70FL	○			○	○	○		○	30~70	○	6.2	86.0~169.0		○		○	○	〃
	CGスチールジョイント	NL-20F,30F,40F,50F,60F	○			○	○	○		○	20~60	○	6.2~12.5	50~79		○		○	○	〃
	ラバエースジョイント	KTH-35,60	○	○		○	○	○	○		35~60	○	6.2	41~47	○			○	○	誘導板別途
		KT-AS	○	○		○	○	○	○		20	○	6.2	41	○			○	○	〃
	PCJスーパージョイント	PCJ-20	○			○	○	○		○	20	○	6.2	49	○			○	○	〃
		PCJ-25,35	○			○	○	○		○	25~35	○	6.2	50~58		○		○	○	〃
秩父産業	メタルジョイント	LG-A40,A60,A90,A120,A170		○			○	○	○		40~170	○	6.2	77.5~129.0		○		○	○	
		KC-A20,A30,A40,A50,A70,A80	○	○			○	○		○	20~80	○	6.2	65.7~179.8		○		○	○	
		SC-A30	○	○			○	○	○		30	○	4.0	33.3	○			○	○	
		KC-A20G,A30G,A40G,A50G,A70G	○	○	○		○	○		○	20~70	○	6.2	70.8~148.7		○		○	○	片側誘導板付き
		KC-A20WG,A30WG,A40WG,A50WG,A70WG	○	○	○		○	○		○	20~70	○	6.2	76.8~156.2		○		○	○	両側誘導板付き
		SC-A30WG	○	○	○		○	○	○		30	○	4.0	39.6	○			○	○	〃

※本体に付属するアンカーボルトが，分離可能な「ボルト後締め」の場合は，本体質量に含まない。

→

改正

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(2)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー 形式 ボルト後締め	本体付属アンカー 形式 本体溶接済み	本体付属アンカー 本体価格に含む	摘要
新日本構研	スーパーリードジョイント	iG-1s,1sw,1v	○	○		○	○	○	○		80	○	10.58	95~180		○		○	○	誘導板含む,二次止水構造別途
		F	○	○		○		○	○		60	○	7.86	63.00		○		○	○	誘導板,二次止水構造別途
		T	○	○				○	○		60	○	5.15	71.00		○		○	○	誘導板,二次止水構造別途
			○	○			○		○		60	○	3.53	49.00	○			○	○	鉛直伸縮量±30mm,二次止水構造別途
中外道路	ガイスライドジョイント	GS-20,25,30,50,80,100,125,150,175,200,220		○			○	○	○		20~220	○	4.0	83~119		○		○	○	
		GS-NL20,30,40,50,60,70,90,110		○			○	○	○		20~110	○	6.2	91.0~149.0		○		○	○	
	スーパーガイトップジョイント	SGTd-20,25,30,50	○			○	○	○		○	20~50	○	6.2	50~56		○		○	○	誘導板別途
		SGTd-80,100	○			○	○	○		○	80~100	○	12.5	70~83		○		○	○	〃
	メタルガージョイント	NL-20FL,30FL,40FL,50FL,60FL,70FL	○			○	○	○		○	20~70	○	6.2	59~149		○		○	○	〃
		NT-80FFL	○			○	○	○		○	80	○	12.5	91		○		○	○	〃
		NLt-30FL(SRFJ),50FL(SRFJ),70FL(SRFJ)	○			○	○	○		○	30~70	○	6.2	86.0~169.0		○		○	○	両側誘導板付き
	CGスチールジョイント	NL-20F,30F,40F,50F,60F	○			○	○	○		○	20~60	○	6.2~12.5	50~79		○		○	○	誘導板別途
	ラバエースジョイント	KTH-35,60	○	○		○	○	○	○		35~60	○	6.2	41~47	○			○	○	誘導板別途
		KT-AS	○	○		○	○	○	○		20	○	6.2	47	○			○	○	〃
	PCJスーパージョイント	PCJ-20	○			○	○	○		○	20	○	6.2	49	○			○	○	〃
		PCJ-25,35	○			○	○	○		○	25~35	○	6.2	50~58		○		○	○	〃
秩父産業	メタルジョイント	LG-A40,A60,A90,A120,A170		○			○	○	○		40~170	○	6.2	77.5~129.0		○		○	○	
		KC-A20,A30,A40,A50,A70,A80	○	○			○	○		○	20~80	○	6.2	65.7~179.8		○		○	○	
		SC-A30	○	○			○	○	○		30	○	4.0	33.3	○			○	○	
		KC-A20G,A30G,A40G,A50G,A70G	○	○	○		○	○		○	20~70	○	6.2	70.8~148.7		○		○	○	片側誘導板付き
		KC-A20WG,A30WG,A40WG,A50WG,A70WG	○	○	○		○	○		○	20~70	○	6.2	76.8~156.2		○		○	○	両側誘導板付き
		SC-A30WG	○	○	○		○	○	○		30	○	4.0	39.6	○			○	○	〃

※本体に付属するアンカーボルトが，分離可能な「ボルト後締め」の場合は，本体質量に含まない。

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

(控え頁)

工種	橋梁付属物工

改正理由	一部改正	改正 / 現行	

現行

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(5)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー形式 ボルト後締め	形式 本体溶接済み	本体価格に含む	摘要
クリエート中川	ウェルタージョイント	W・T-20,30,40,50,60,70,80,90	○				○	○		○	20～100	○	6.24～12.48	76.0～115.0		○		○	○	
	ウェルターリブジョイント	W・T・R-20,30,40,50,60,70,80,90,100	○		○			○		○	20～100	○	6.24～12.48	83.0～122.0		○		○	○	誘導板付き
	ウェルタージョイントK型	W・T・K-20,25,35,50	○	○			○	○		○	20～50	○	6.24	52.0～59.0		○		○	○	
	ウェルタージョイントG型	WT-G20,G30,G50,G70	○			○	○	○		○	20～70	○	6.24	70.0～161.0		○		○	○	二重止水構造付き
	ウェルターリブジョイントG型	WTR-G20,G30,G50,G70	○		○			○		○	20～70	○	6.24	80.0～171.0		○		○	○	二重止水構造,誘導板付き
	ウェルタージョイントGNS	WT-G20NS,G30NS,G50NS,G70NS		○				○	○		20～70	○	6.21	76.0～172.0		○		○	○	二重止水構造付き
	シーアールティージョイント	C・R・T-20,30,35,50,60	○	○			○	○	○		20～60	○	6.24	47.0	○			○	○	
	ノンステップジョイント	N・S-20,30,50		○				○	○		20～50	○	6.24	41.0～46.0	○			○	○	
		N・S-80,100,125,150,175,200,220,230		○				○	○		80～230	○	6.24	51.0～83.0		○		○	○	
クリテック工業	ハイブリットジョイント	SS-20	○	○		○	○	○	○		20	○	6.24	28.1	○			○	○	二次止水材，誘導板別途
		NS-20	○			○	○	○		○	20	○	6.24	32.8	○			○	○	〃
		S-30,40,50	○			○	○	○		○	30～50	○	15.6	55.1～58.3		○		○	○	〃
		L-60,70,80,90,100	○			○	○	○		○	60～100	○	15.6	79.0～83.3		○		○	○	〃
		LL-125,150,175	○			○	○	○		○	125～175	○	15.6	100.3～131.0		○		○	○	〃
		PS-20,30,40,50,60,70,80,90,100,125,150,175,200,250,300,350,400		○			○	○	○		20～400	○	6.24	63.0～135.7		○		○	○	二次止水材別途
		NPS-30		○			○	○	○		30	○	6.21	23.0	○			○	○	
		NRC-20,35	○	○		○	○	○	○		20～35	○	3.1	33.5～40.3	○			○	○	誘導板別途
		HS-20	○				○			○	20	○	6.24	24.7	○			○	○	
川金コアテック	マゲバジョイント	RS	○	○		○		○	○		80	○	11.0	102.6		○		○	○	積雪地兼用，誘導板別途

改正

<参考資料> ◆市場単価適用可能　橋梁用伸縮継手装置一覧表(5)

製作会社名	伸縮装置 名称	伸縮装置 型番	【用途関係】歩車道区分 車道用	歩車道区分 歩道用	積雪地対応 専用型	積雪地対応 仕様有り	設置方向 道路縦断方向	設置方向 道路横断方向	【構造関係】遊間部形状 直線型	遊間部形状 歯型	伸縮量 (mm)	非排水構造	補強鉄筋重量 (kg/m)	※本体重量 (kg/1.8m)	分類 軽量型	分類 普通型	本体付属アンカー形式 ボルト後締め	形式 本体溶接済み	本体価格に含む	摘要
クリエート中川	ウェルタージョイント	W・T-20,30,40,50,60,70,80,90	○				○	○		○	20～100	○	6.24～12.48	76.0～115.0		○		○	○	
	ウェルターリブジョイント	W・T・R-20,30,40,50,60,70,80,90,100	○		○			○		○	20～100	○	6.24～12.48	83.0～122.0		○		○	○	誘導板付き
	ウェルタージョイントK型	W・T・K-20,25,35,50	○	○			○	○		○	20～50	○	6.24	52.0～59.0		○		○	○	
	ウェルタージョイントG型	WT-G20,G30,G50,G70	○			○	○	○		○	20～70	○	6.24	70.0～161.0		○		○	○	二重止水構造付き
	ウェルターリブジョイントG型	WTR-G20,G30,G50,G70	○		○			○		○	20～70	○	6.24	80.0～171.0		○		○	○	二重止水構造,誘導板付き
	ウェルタージョイントGNS	WT-G20NS,G30NS,G50NS,G70NS		○				○	○		20～70	○	6.24	76.0～172.0		○		○	○	二重止水構造付き
	シーアールティージョイント	C・R・T-20,30,35,50,60	○	○			○	○	○		20～60	○	6.24	47.0	○			○	○	
	ノンステップジョイント	N・S-20,30,50		○				○	○		20～50	○	6.24	41.0～46.0	○			○	○	
		N・S-80,100,125,150,175,200,220,230		○				○	○		80～230	○	6.24	51.0～83.0		○		○	○	
クリテック工業	ハイブリットジョイント	SS-20	○	○		○	○	○	○		20	○	6.24	28.1	○			○	○	二次止水材，誘導板別途
		NS-20	○			○	○	○		○	20	○	6.24	32.8	○			○	○	〃
		S-30,40,50	○			○	○	○		○	30～50	○	6.24～12.5	55.1～58.3		○		○	○	〃
		L-60,70,80,90,100	○			○	○	○		○	60～100	○	6.24～12.5	79.0～83.3		○		○	○	〃
		LL-125,150,175	○			○	○	○		○	125～175	○	12.5	100.3～131.0		○		○	○	〃
		PS-20,30,40,50,60,70,80,90,100,125,150,175,200,250,300,350,400		○			○	○	○		20～400	○	6.24	63.0～135.7		○		○	○	二次止水材別途
		NPS-20,30,40,60		○			○	○	○		20～60	○	6.24	12.8～27.9	○			○	○	
		~~NRC-20,35~~	~~○~~	~~○~~		~~○~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~		~~20～35~~	~~○~~	~~3.1~~	~~33.5～40.3~~	~~○~~			~~○~~	~~○~~	~~誘導板別途~~
		HS-20	○				○			○	20	○	6.24	24.7	○			○	○	
川金コアテック	マゲバジョイント	RS	○	○		○		○	○		80	○	11.0	102.6		○		○	○	積雪地兼用，誘導板別途

※本体に付属するアンカーボルトが，分離可能な「ボルト後締め」の場合は，本体質量に含まない。

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

(控え頁)

改正理由

一部改正

積算上の注意事項

VI-2-⑥-17

現行

＜参考資料＞　◆市場単価適用可能　橋梁用埋設型伸縮継手装置一覧表

製作会社名	伸縮装置名称	【用途関係】 歩車道区分 車道用	歩道用	設置方向 道路縦断方向	道路横断方向	製品取付部位 舗装厚内型	床版箱抜型	【構造関係】 新設施工法 先付	後付	伸縮量(mm)	非排水構造	補強鉄筋重量(kg/m)	材料区分 種類(合材)	標準断面寸法 B(mm)	H(mm)	摘要
アオイ化学工業	ラバトップジョイント埋設型	○	○		○	○			○	30.0	○		RTｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ	500	75	
	ラバトップジョイント250U	○	○		○	○			○	20	○		MJｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ	250	50	遊間50mm以下
山王	MMジョイントDS型	○	○	○	○	○			○	40.0	○		DS合材	400	75	表層材:表面散布骨材
東京ファブリック工業	インナージョイント	○	○		○	○			○	30(±15)	○		ﾊﾞｲﾝﾀﾞｰ樹脂	500	75	
ヒートロック工業	シームレスジョイントSJ-M	○	○	○	○		○		○	50.0	○	5.4	ﾌｧﾙｺﾝ	400(400)	120(40)	遊間60mm超えは別途見積
	シームレスジョイントSJ-P	○	○	○	○		○	○		30.0	○	5.4	ﾌｧﾙｺﾝ	400(400)	40(40)	遊間60mm超えは別途見積
メンテナンス九州	MMジョイント	○	○		○	○			○	40	○		ﾏﾄﾘｸｽ502	500	50	
山陽化学	Filler joint	○	○	○	○		○		○	30	○	1.56	ﾛｯｸﾌｧﾙﾄ	400	80	

※1．断面寸法は，実際の設計に合わせて決定する。
※2．標準断面寸法が（　）となっている規格については，床板箱抜き寸法を表す。

改正

＜参考資料＞　◆市場単価適用可能　橋梁用埋設型伸縮継手装置一覧表

製作会社名	伸縮装置名称	【用途関係】 歩車道区分 車道用	歩道用	設置方向 道路縦断方向	道路横断方向	製品取付部位 舗装厚内型	床版箱抜型	【構造関係】 新設施工法 先付	後付	伸縮量(mm)	非排水構造	補強鉄筋重量(kg/m)	材料区分 種類(合材)	標準断面寸法 B(mm)	H(mm)	摘要
アオイ化学工業	ラバトップジョイント埋設型	○	○		○	○			○	30.0	○		RTｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ	500	75	
	ラバトップジョイント250U	○	○		○	○			○	20	○		MJｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ	250	50	遊間50mm以下
山王	MMジョイントDS型	○	○	○	○	○			○	40.0	○		DS合材	400	75	表層材:表面散布骨材
東京ファブリック工業	インナージョイント	○	○		○	○			○	30~~(±15)~~	○		ﾊﾞｲﾝﾀﾞｰ樹脂	500	75～80	
ヒートロック工業	シームレスジョイントSJ-M	○	○	○	○		○		○	50.0	○	5.4	ﾌｧﾙｺﾝ	400(400)	120(40)	遊間60mm超えは別途見積
	シームレスジョイントSJ-P	○	○	○	○		○	○		30.0	○	5.4	ﾌｧﾙｺﾝ	400(400)	40(40)	遊間60mm超えは別途見積
メンテナンス九州	MMジョイント	○	○		○	○			○	40	○		ﾏﾄﾘｸｽ502	500	50	
山陽化学	Filler joint	○	○	○	○		○		○	30	○	1.56	ﾛｯｸﾌｧﾙﾄ	400	80	

※1．断面寸法は，実際の設計に合わせて決定する。
※2．標準断面寸法が（　）となっている規格については，床板箱抜き寸法を表す。

備考

記載の変更

工種

橋梁付属物工

改正
現行

工　　種	薄層カラー舗装工

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
⑦ 薄層カラー舗装工	⑥ 薄層カラー舗装工	記載の変更

1. 適 用 範 囲

本資料は，市場単価方式による，薄層カラー舗装工に適用する。

1－1　市場単価が適用出来る範囲

（1）　樹脂モルタル舗装工における歩道橋，側道橋，歩道及び自転車道の舗装。

（2）　景観透水性舗装工における歩道及び遊歩道の舗装。

（3）　樹脂系すべり止め舗装工における車道及び歩道（路側帯，スクールゾーンを含む）の舗装。

1－2　市場単価が適用出来ない範囲

（1）　特別調査等別途考慮するもの。

1）　加熱混合系薄層カラー舗装。

2）　型枠式カラータイル舗装。

3）　壁面，階段の立ち上がり部（垂直面）を施工する場合。

4）　離島及び山間僻地等で，明らかに単価が異なると判断される地域の場合。

5）　その他，規格・仕様等が適合せず市場単価を適用出来ない場合。

2. 市場単価の設定

2－1　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○印及びフロー図の実線の部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
樹脂モルタル舗装工	○	○	○

下地処理 → プライマー塗布 → 舗設材の混合 → 舗設材の敷設 → 仕上げ・養生

工　種	市場単価		
	機	労	材
景観透水性舗装工	○	○	○

下地処理 → プライマー塗布 → 舗設材の混合 → 舗設材の敷設 → 仕上げ・養生

工　種	市場単価		
	機	労	材
樹脂系すべり止め舗装工	○	○	○

下地処理 → プライマー塗布 → 目止用硅砂充填 → 樹脂バインダー散布 → 骨材の散布 → トップコート塗布 → 仕上げ・養生

（注）1．樹脂系すべり止め舗装工のプライマー塗布は，コンクリート面への敷設の場合に施工。

2．樹脂系すべり止め舗装工の目止用硅砂充填は，規格・仕様区分によって施工。

3．樹脂系すべり止め舗装工のトップコート塗布は，規格・仕様区分によって施工。

現行どおり

（注）1．樹脂系すべり止め舗装工のプライマー塗布は，コンクリート面への敷設の場合に施工。

2．樹脂系すべり止め舗装工の目止用硅砂充填は，規格・仕様区分によって施工。

3．樹脂系すべり止め舗装工のトップコート塗布は，規格・仕様区分によって施工。

4．すべり抵抗試験は含まない。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

の施工量が標準施工規模に満たない場合については、一日当たりの施工数量で施工規模を判定する。

2．施工規模加算率（S_1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）が重複する場合は，施工規模加算率のみ対象とする。

3．階段ステップ部の補正を行った場合は，施工規模加算率は適用しないが，時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）は適用可能とする。

4．既設アスファルト舗装面の施工（K_4）の補正は，既設アスファルト面に薄層カラー舗装を施工する場合であり，切削オーバーレイや打ち換え等，舗装面が施工直後の場合，補正を行わない。

2－4　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注）×設計数量

（注）設計単価＝標準の市場単価×（$1+S_0$ or $S_1/100$）×（$K_1 \times K_2 \times \cdots\cdots \times K_8$）

3．適用にあたっての留意事項

市場単価の適用にあたっては，以下の点に留意すること。

（1）　共通事項

1）　各区分の工法は次のとおりとする。

表3．1　工法の内容

区　分	目　地　模　様
樹脂モルタル舗装工	樹脂系材料(エポキシ樹脂)と骨材を使用したモルタルを，コテ仕上げによって路面に敷設する工法。
景観透水性舗装工	樹脂系材料(エポキシ樹脂)と骨材(自然石等)を，使用したモルタルを，コテ仕上げによって路面に敷設する工法。
樹脂系すべり止め舗装工	樹脂系材料(エポキシ樹脂)を使用し，硬質骨材を路面に接着させる工法。

2）　下地は標準状態とし，はつり，サンダー掛け，錆落とし及び不陸整正のための下地調整を含まないものとする。下地調整を必要とする場合は，別途計上する。（下地処理とは，施工面にあるゴミ・泥・ほこりなどを除去する簡単な作業をいう。）

3）　斜路部の施工は，階段ステップ部の補正を適用しない。

VI-2-⑦-4

改正

の施工量が標準施工規模に満たない場合については、一日当たりの施工数量で施工規模を判定する。

2．施工規模加算率（S_1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）が重複する場合は，施工規模加算率のみ対象とする。

3．階段ステップ部の補正を行った場合は，施工規模加算率は適用しないが，時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）は適用可能とする。

4．既設アスファルト舗装面の施工（K_4）の補正は，既設アスファルト面に薄層カラー舗装を施工する場合であり，切削オーバーレイや打ち換え等，舗装面が施工直後の場合，補正を行わない。

5．施工幅員が 0.5m 超 1.0m 以下の場合の補正（K_7），施工幅員が 0.5m 以下の場合の補正（K_8）は，ゼブラ施工の場合にも適用する。

2－4　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注）×設計数量

（注）設計単価＝標準の市場単価×（$1+S_0$ or $S_1/100$）×（$K_1 \times K_2 \times \cdots\cdots \times K_8$）

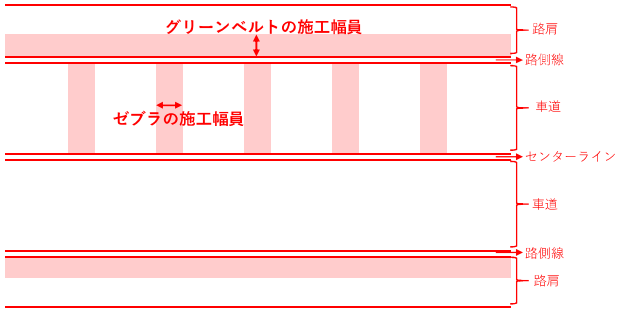


図2．1　平面模式図

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

工　種	軟弱地盤処理工

改正理由	廃止	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
	削除	歩掛の廃止

⑪ 軟弱地盤処理工

1. 適用範囲

本資料は，市場単価方式による，軟弱地盤処理工に適用する。

1－1　市場単価が適用出来る範囲

（1）　粘土，シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちのサンドドレーン工，サンドコンパクションパイル工及びこれらの工種の併用工に適用する。

（2）　サンドドレーン工は杭径400mm 及び500mm，サンドコンパクションパイル工はケーシングパイプ径400mm，杭径700mm程度で，いずれも敷鉄板の使用を標準とし，打設長は35m未満とする。

1－2　市場単価が適用出来ない範囲

（1）　土木工事標準積算基準書等により別途積算するもの。

1）　サンドマット工

2）　サンドパイル打機の分解・組立及び運搬

（2）　特別調査等別途考慮するもの

1）　静的締固工法（オーガ方式による砂杭造成工法）。

2）　砂地盤を対象とする場合。

3）　離島および山間僻地等で、明らかに単価が異なると判断される地域の場合。

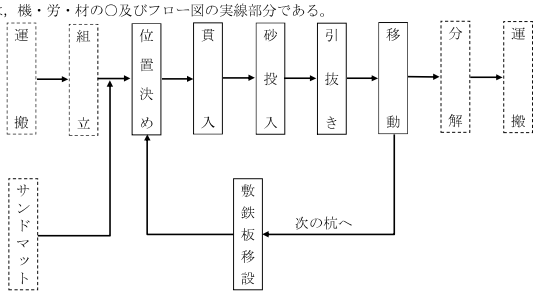
4）　その他，規格・仕様等が適合せず市場単価が適用出来ない場合。

2. 市場単価の設定

2－1　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。

工　種	市場単価		
	機	労	材
サンドドレーン工	○	○	※×
サンドコンパクションパイル工	○	○	※×



（注）1．敷鉄板の費用，敷鉄板の設置・撤去・移動，空気圧縮機，発動発電機等の費用を含む。

2．材料費（砂，砕石）の費用は含まない。

3．※については，施工単価入力基準（WB812610，WB812620，WB812630）において加算することができる。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／5

工　種	軟弱地盤処理工

改正理由	廃止	改正 現行	

現行	改正	備考
		歩掛の廃止

２－２　市場単価の規格・仕様

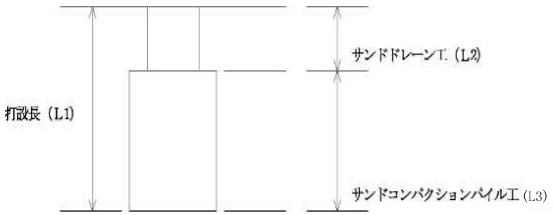
軟弱地盤処理工の市場単価の規格・仕様区分は下表のとおりである。

表2．1　規格・仕様区分

区　分	規格・仕様	単位
サンドドレーン工	打設長　10m未満	m
	10m以上20m未満	
	20m以上35m未満	
サンドコンパクションパイル工	打設長　10m未満	
	10m以上20m未満	
	20m以上35m未満	

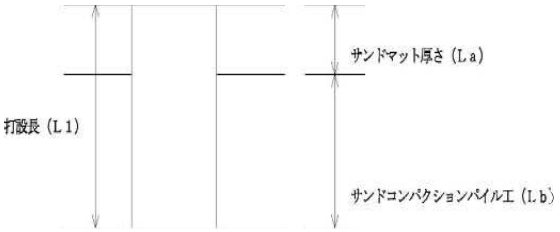
（注）１．規格・仕様は，造成する砂杭１本当りの打設長を対象とする。

２．併用工の場合は，区分毎の杭長（Ｌ２・Ｌ３）で判断せず，造成する砂杭１本当りの打設長（Ｌ１）を対象とする。（Ｌ１＜35m）



→ 削除

３．サンドマットがある場合，サンドマット（Ｌａ）の厚みを含む長さ（Ｌ１＝Ｌａ＋Ｌｂ）とする。



４．１工事で規格・仕様が複数にわたる場合，それぞれの規格・仕様に応じた打設長を適用する。

積算上の注意事項		（控え頁） 2／5

工　種	軟弱地盤処理工

改正理由	廃止	改正 現行	

現行	改正	備考
2－3　加算率・補正係数 （1）　加算率・補正係数の適用基準 表2.2　加算率・補正係数の適用基準 （2）　加算率・補正係数の数値 表2.3　加算率・補正係数の数値 （注）1．施工規模加算率（S_1）と時間的制約を受ける場合の補正係数（K_1）が重複する場合は施工規模加算率（S_1）のみを対象とする。 2．併用工の施工規模は，区分（L2・L3）毎の総延長で判断せず，1工事における総延長（L1）の合計で判断する。（表2.1（注）2の図参照） 2－4　直接工事費の算出 直接工事費＝設計単価（注1）×設計数量＋材料費（注2） （注）1．設計単価＝標準の市場単価×（1＋S_0 or S_1／100）×（K_1×K_2） 2．材料費は必要に応じて計上。 **3．適用にあたっての留意事項** 市場単価の適用にあたっては，以下の点に留意すること。 （1）　市場単価には材料費（砂，砕石）を含まない。材料費の計上は次による。 材料費＝π／4×杭径^2×（1＋ロス率（注1））×工種別打設長（注2）×材料単価 表3.1　砂のロス率 （注）1．砕石を使用する場合のロス率は別途考慮すること。 2．サンドマットの厚みも含む。 （2）　サンドパイル打機の分解・組立・運搬については，別途運搬費にて計上する。 （3）　随意契約による調整を行う追加工事の取扱いは，現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定する。 VI-2-⑪-3	削除	歩掛の廃止

表2.2　加算率・補正係数の適用基準

区分		適用基準	記号	備考
加算率	施工規模	標準	S_0	全体数量
		1工事の施工規模が標準より小さい場合は，対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。	S_1	
補正係数	時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間（所定労働時間）を7時間以下4時間以上に制限する場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_1	対象数量
	夜間作業	通常勤務すべき時間（所定労働時間）帯を変更して，作業時間が夜間（20時～6時）にかかる場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K_2	

表2.3　加算率・補正係数の数値

区分		記号	サンドドレーン工	サンドコンパクションパイル工
加算率	施工規模	S_0	(3,000m以上)　0％	
		S_1	(3,000m未満)　15％	
補正係数	時間的制約を受ける場合	K_1	1.15	
	夜間作業	K_2	1.05	

表3.1　砂のロス率

サンドドレーン工	＋0.26
サンドコンパクションパイル工	＋0.41

積算上の注意事項		（控え頁） 3／5

工　種	軟弱地盤処理工

改正理由	廃止	改正 現行	

現行

4. 施工単価入力基準表

（1） サンドドレーン工

施工歩掛コード	WB812610	施工単位	本

施工区分	入力条件					
	J1	J2	J3	J4	J5	J6
各種	規格・仕様 （表4.1）	打設長 （m／本） （実数入力）	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭径 （m） （実数入力）

（注）1．砂単価（Y-0240000）［円／m３］を単価登録すること。
2．Ｊ３条件で②を選択した場合は，Ｊ４条件は①で固定される。
3．サンドマットが必要な場合は，「第Ⅱ編第２章⑪－１サンドマット工」により別途計上すること。

（2） サンドコンパクションパイル工

施工歩掛コード	WB812620	施工単位	本

施工区分	入力条件					
	J1	J2	J3	J4	J5	J6
各種	規格・仕様 （表4.1）	打設長 （m／本） （実数入力）	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭径 （m） （実数入力）

（注）1．砂単価（Y-0240000）［円／m３］を単価登録すること。
2．Ｊ３条件で②を選択した場合は，Ｊ４条件は①で固定される。
3．サンドマットが必要な場合は，「第Ⅱ編第２章⑪－１サンドマット工」により別途計上すること。

（3） サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工

施工歩掛コード	WB812630	施工単位	本

施工区分	入力条件							
	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8
各種	規格・仕様 （表4.1）	打設長 （SD） （m／本） （実数入力）	打設長 （SCP） （m／本） （実数入力）	杭径 （SD） （m） （実数入力）	杭径 （SCP） （m） （実数入力）	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有

（注）1．砂単価（Y-0240000）［円／m３］を単価登録すること。
2．Ｊ６条件で②を選択した場合は，Ｊ７条件は①で固定される。
3．サンドマットが必要な場合は，「第Ⅱ編第２章⑪－１サンドマット工」により別途計上すること。

表4.1 規格・仕様

規格・仕様	番号
杭１本当り打設長　10m未満	①
10m以上20m未満	②
20m以上35m未満	③

→

改正

削除

備考

歩掛の廃止

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	軟弱地盤処理工

改 正 理 由	廃止	改　正 現　行	

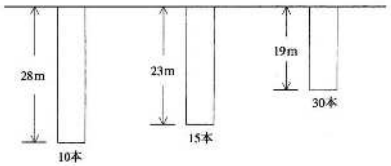
現　　行	改　　正	備　　考
5. 参 考 資 料 （1） 適用機種 打設長（規格・仕様）毎の機種の選定は下表を標準とする。	削除	歩掛の廃止

打 設 長	機　種	規　格
10m未満	クローラ式 サ ン ド パイル打機	リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37ｔ吊り)
10m以上20m未満		
20m以上35m未満		リーダ式 120kW リーダ長 45m (40ｔ吊り)

（注）1．運搬費については，上表を参考に別途計上する。
2．サンドドレーン，サンドコンパクションパイル，併用工についても使用機械は変わらない。

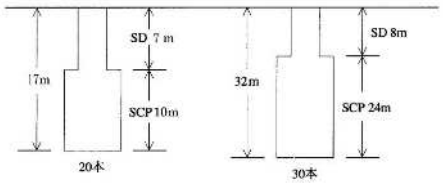
（2） 積算例

・一工事においてＳＣＰで以下の砂杭を造成した場合



{SCP・20m以上35m未満の単価} × 28m× 10 本＋ {SCP・20m以上35m未満の単価} × 23m× 15 本＋
{SCP・10m以上20m未満の単価} × 19m× 30 本

・一工事においてＳＤとＳＣＰの併用工で以下の砂杭を造成した場合



({SCP・10m以上20m未満の単価} × 10m＋ {SD・10m以上20m未満の単価} × 7m) × 20 本＋
({SCP・20m以上35m未満の単価} × 24m＋ {SD・20m以上35m未満の単価} × 8m) × 30 本

〔凡例〕
ＳＤ：サンドドレーン工
ＳＣＰ：サンドコンパクションパイル工

VI-2-⑪-5

積算上の注意事項		（控え頁） 5／5

工　　種	鉄筋挿入工(ロックボルト工)

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行

4.　施工単価入力基準表

（1）　鉄筋挿入工

施工歩掛コード	WB813110	施工単位	m

施工区分	入　力　条　件				
	Ｊ１	Ｊ２	Ｊ３	Ｊ４	Ｊ５
各　　種	現場条件 （表 4.1）	１箇所当り 平均削孔長 （実数入力） （m／箇所）	削孔径 （実数入力） （mm）	１箇所当り 平均鉄筋長 （実数入力） （m／箇所）	グラウト材 補正係数 ①標準（0.4） ②標準以外 （実数入力）

Ｊ６	Ｊ７	Ｊ８
法面垂直高さ ①20m以下 ②20mを超え，30m以下	施工規模 ① 200m以上（標準） ② 100m以上200m未満 ③ 100m未満	時間的制約を受ける場合の補正 ①無 ②有

（注）１．鋼材単価(Y-0800001)[円/m]を単価登録すること。
２．グラウト材単価(Y-0231000)[円/m³]を単価登録すること。
３．頭部処理の材料費(角座金，ナット，ワッシャー，オイルキャップ，グリス等)は，１組として頭部処理材単価(Y-0800009)[円/組]を単価登録すること。
４．Ｊ１で②を選択した場合は，鉄筋挿入の仮設足場工(WB813130)を別途計上すること。
５．Ｊ１条件で②，③を選択した場合は，Ｊ６条件は入力する必要はない。また，Ｊ１条件で③を選択した場合は，Ｊ７条件は入力する必要はない。
６．Ｊ７条件で②，③を選択した場合は，Ｊ８条件は入力する必要はない。

表4.1　現場条件

現場条件(足場条件)	番　号
《現場条件Ⅰ》 削孔に要する重機の搬入が可能な場合	①
《現場条件Ⅱ》 施工スペースが狭隘で，削孔に要する重機の搬入が困難である場合	②
《現場条件Ⅲ》 施工スペースが狭隘で，削孔に要する重機の搬入，仮設足場(単管足場)の設置，土足場の確保が困難である場合	③

（2）　削孔機械の上下移動

施工歩掛コード	WB813120	施工単位	回

（3）　鉄筋挿入の仮設足場工

施工歩掛コード	WB813130	施工単位	空m³

VI-2-⑭-7

改　　正

現行どおり

（注）１．鋼材単価(Y-0002002)[円/m]を単価登録すること。
２．グラウト材単価(Y-0231000)[円/m3]を単価登録すること。
３．頭部処理の材料費(角座金，ナット，ワッシャー，オイルキャップ，グリス等)は，１組として頭部処理材単価(Y-1281001)[円/組]を単価登録すること。
４．Ｊ１で②を選択した場合は，鉄筋挿入の仮設足場工(WB813130)を別途計上すること。
５．Ｊ１条件で②，③を選択した場合は，Ｊ６条件は入力する必要はない。また，Ｊ１条件で③を選択した場合は，Ｊ７条件は入力する必要はない。
６．Ｊ７条件で②，③を選択した場合は，Ｊ８条件は入力する必要はない。

現行どおり

備　　考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1